

## 「二重丸」の呼び名「フタエマル」について

2014/08/12 熊本大学日本語日本文学研究室

2014年8月7日(木)の熊本大学オープンキャンパスにおいて、日文研究室前の廊下スペースを使って、簡易版の方言アンケートを行いました。これは、九州の地図を用意しておいて、「二重丸(◎)」の呼び名として「フタエマル」を使うかどうか(3択)について、回答者の出身地に色別のシールを貼ってもらう、というものです(地図は別ファイルを参照)。

「高校生用」アンケートと「大人用」アンケートを実施した結果、「高校生用」は110人、「大人用」は11人の回答が得られました。

以下、多数の回答が得られた「高校生用」アンケートについてデータを見ます。

まず、県別の回答は、次の表のとおりです。人数に偏りがありますが、各県の高校生から回答が得られました。

表:「フタエマル」という言い方(高校生・県別・人数)

	言う/ 言っていた	聞いたこと がある	聞いたこと がない	計
福岡	1	6	19	26
佐賀	0	2	15	17
長崎	0	1	3	4
熊本	6	13	6	25
大分	3	13	11	27
宮崎	0	2	1	3
鹿児島	0	1	7	8
計:	10	38	62	110

次に、県別にそれぞれの回答の割合を示すと、次の図のようになります。

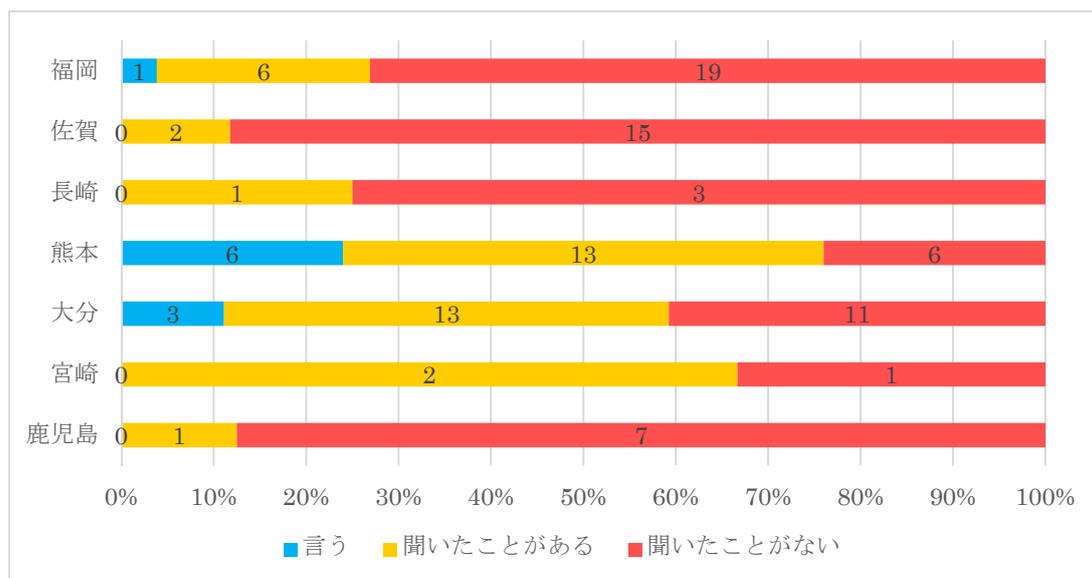


図:「フタエマル」という言い方(高校生・県別・割合)

まず、二重丸のことを「フタエマル」と「言う／言っていた」という高校生は、熊本県（6人／24%）、大分県（3人／11.1%）、福岡県（1人／3.8%）に見られました。

地図から分かるように、熊本県内では、熊本市周辺に使用者が最も多く分布しています。大分県・福岡県の使用者の出身地も熊本県との境に近いように見えますが、大分県には海側（中津～豊後高田）にも2人の使用者がいました。

「(自分では使わないが)聞いたことがある」高校生は、九州各県に見られます。「他県の人から聞いた」という可能性もあるのですが、「言う／言っていた」と「聞いたことがある」を合わせた認知率で言うと、熊本県(19人／76%)が最も高く、続いて宮崎県(2人／66.7%)、大分県(16人／59.3%)となっています。使用者がいた福岡県の認知率がそれほど高くない(7人／26.9%)のは面白いところです。

反対に「聞いたことがない」と答えた高校生が多かったのは、佐賀県（15人／88.2%）と鹿児島県（7人／87.5%）です。

実は、この「フタエマル」という表現に関しては、当研究室の坂口至教授が2013年に、大学生を中心とした調査を行っています（データ等は未公開）。この調査の結果の一部を示すと、次のとおりです。

- 1) 九州全体では、二重丸の呼び名として「ニジューマル」を使う人が最も多い。
- 2) 中・高年層を中心に、九州全県に「フタエマル」を使う人がいる。ここから、「フタエマル」が伝統的な言い方で、「ニジューマル」が新しい言い方だと推測される。
- 3) 「フタエマル」を使う人の割合は熊本県で最も多く、若年層にもかなり使用者がいる。

先に見たとおり、今回の「高校生用」アンケートでも、熊本県における「フタエマル」の勢力が確認できました。熊本県の「フタエマル」は根強く残っているようです。また、大分県については、新たなデータが得られたと言えます。

「大人用」アンケートの回答者がもっと多かったら、2)と同じような傾向が見られたかもしれませんが、今回は残念ながらはっきりとしたことが言えませんでした。

さらに「一重丸」「三重丸」は何と云うのかなど、調べられることはたくさんあります。興味のある方は、ぜひチャレンジしてみてください。

文責：茂木